

⑩ 日本国特許庁 (JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報 (A)

昭59-176186

⑬ Int. Cl.³
B 63 B 39/03
1/18
43/06

識別記号

庁内整理番号
7721-3D
7270-3D
7721-3D

⑭ 公開 昭和59年(1984)10月5日

発明の数 1
審査請求 有

(全 3 頁)

⑮ 滑走ボート

⑯ 特 願 昭58-47588

⑰ 出 願 昭58(1983)3月22日

⑱ 発 明 者 飯塚義宣

栃木県安蘇郡田沼町多田912

⑲ 発 明 者 小堀一夫

佐野市小中町957の1

⑳ 出 願 人 アキレス株式会社

東京都新宿区大京町22番地の5

明 細 書

1. 発明の名称

滑走ボート

2. 特許請求の範囲

ウォーターバラストを有する滑走ボートにおいて、ウォーターバラストに該ウォーターバラストを前後に分割する、連通部を一部に備えた仕切壁を設け、かつ分割された後方ウォーターバラストの後部に排出口を設けさらに前方及び後方ウォーターバラストに、外部に通ずる外通口を設けたことを特徴とする滑走ボート。

3. 発明の詳細な説明

本発明は静止時のボート安定性と滑走時の走行性を高めた滑走ボートに関する。

従来、静止時のボート安定性を得るために船底部にウォーターバラストを設けた構造のボートが提案された。そしてさらにこのようなウォーターバラストに第5図に示すようにその後部に排出口(15)を、前部に外通口(16)を設け、ボートが

滑走状態に入るにつれてウォーターバラスト(17)内の水をその慣性力や重力や船底近傍の流水によるアスビレート作用等によつて排出口より自動排出させ、もつてボート重量を軽くした浮力を増大させ走行性能を上げるようなボートが提案された。

しかしながらこのようなボートにあつては、ウォーターバラストの前方部から水が空気と置換されていくため、後部の船外機等の駆動と相まつて滑走初期においては、第6図に示すように船首(18)の立ち上がりが著しい。このことは滑走開始初期のボート安定性、を著しく害し、滑走状態に入るまでに要する時間が比較的長かつた。本発明はかかる従来の欠点を解消し、すぐれた滑走初期走行性能を有する滑走ボートを提供せんとするものである。

すなわち本発明はウォーターバラストを有する滑走ボートにおいて、ウォーターバラストに該ウォーターバラストを前後に分割する、連通部を一部に備えた仕切壁を設け、かつ分割された後方

ウォーターバラストの後部に排出口を設け、さらに前方及び後方ウォーターバラストに、外部に通ずる外通口を設けたことを特徴とする滑走ボートに係わる。

以下本発明の実施例を図面に基づいて説明する。第1図はボートの静止状態を示す一部欠損側面図、第2図はボート滑走開始時の走行状態を示す一部欠損側面図、第3図は第2図におけるA-A線断面図であり、図中(1)はエンドオープン形に構成されたゴム引布等よりなるエアチューブ、(2)はトランサム板、(3)は船外機を示す。エアチューブ(1)の下部にはFRP等により成形されたウォーターバラスト(4)を備えた船底(5)が固着されている。このウォーターバラスト(4)には、下方に連通部(6)を備えた仕切壁(7)がほぼウォーターバラストの長さを等分する位置に設けられている。さらにこの仕切壁(6)によつて分割された後方ウォーターバラスト(8)の後下端部には排出口(9)が設けられ、前上側部には外部に通ずる外通口(10)が設けられている。

また前方ウォーターバラスト(11)の前上側部には外部に通ずる外通口(12)が設けられている。なおこの実施例では、ウォーターバラストに設ける仕切壁(7)をほぼウォーターバラストの長さを等分する位置としたが本発明はこれに限られるものではなく所望とする安定性、スピード性等の走行性に応じさらに後方あるいは前方に設けてもよいものである。

また仕切壁(7)の形状も傾斜形状のもの、屈折形状のもの等とするも任意である。

またこの仕切壁における連通部(6)の形状、数、開口面積、設定位置等も所望とする走行性に応じ任意に選択すればよい。なお連通部の開口面積は排出口の開口面積よりも少ない方が好ましい。同様に後方ウォーターバラストにおける排出口(9)の形状、数、開口面積、後部における設定位置等また前方および後方ウォーターバラストにおける外通口(12)、(10)の形状、数、開口面積、設定位置等も所望とする走行性に応じ任意に選択し得る。

外通口を例にとつてその設置態様を示すと、外

通口(13)を第4図に示すように底板(14)部分に設けたものであつてもよいものである。

本発明は以上の如く構成したから、ボート静止時には、主に排出口を通つて水がウォーターバラスト内に侵入し、吃水線が上がり安定性を増大させる。

滑走開始時には、後方ウォーターバラスト内の水は、主にその慣性力や重力や排出口近傍の流水によるアスピレート作用によつて、また後方ウォーターバラストに設けた外通口よりの空気の流入に助けられて、排出口より排出されて行く。

一方前方ウォーターバラスト内の水は、仕切壁における連通部を通つて後方ウォーターバラスト内に移動してくるもののこの仕切壁構造によつて流通規制されるため、後方ウォーターバラストの水抜けより遅くなる。したがつてボートの前部にウエイトがかかり従来生じていた滑走初期の船首立ち上がりを防ぎ、ボートの安定性、スピード性等の走行性を高めるものである。

4. 図面の簡単な説明

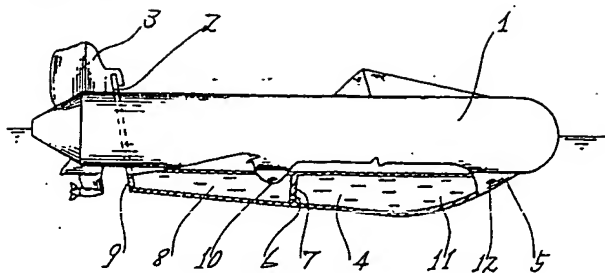
第1図は本発明の実施例滑走ボードの静止時の状態を示す一部欠損側面図、第2図は第1図に示す滑走ボードの滑走開始時の状態を示す一部欠損側面図、第3図は第2図におけるA-A線断面図、第4図は本発明の別の実施例を示す部分断面図、第5図、第6図は従来例を示す一部欠損側面図である。

4…ウォーターバラスト 6…連通部
7…仕切壁 8…後方ウォーターバラスト
9…排出口 10, 12, 13…外通口
11…前方ウォーターバラスト

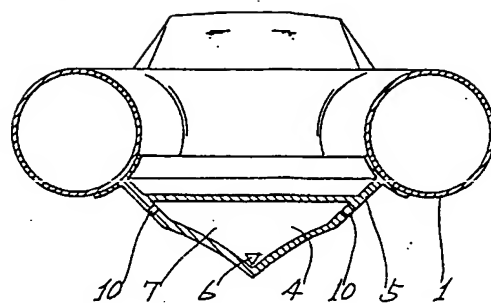
特許出願人

アキレス株式会社

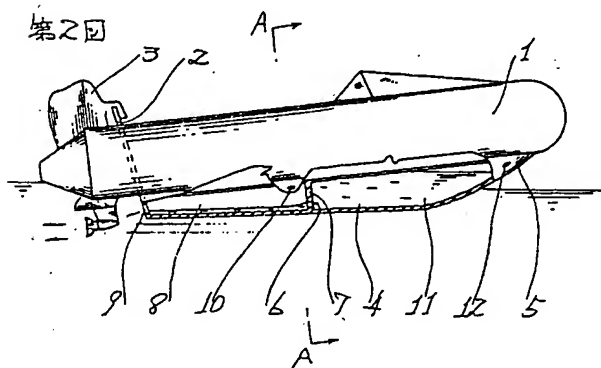
第1図



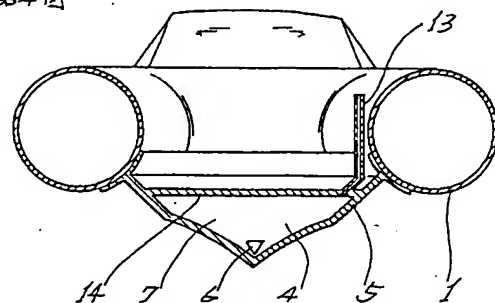
第3図



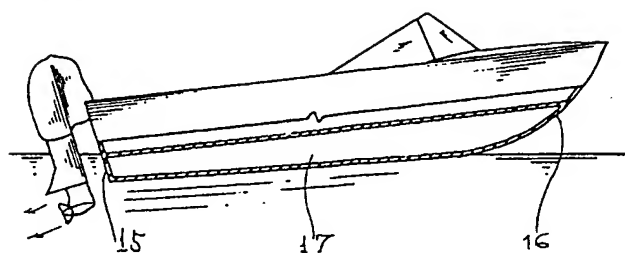
第2図



第4図



第5図



第6図

